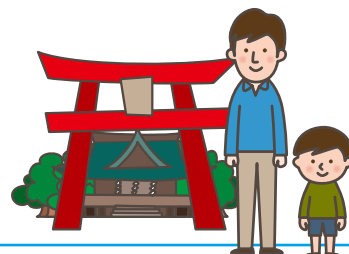


【植松健一委員長のコメント】

産業都市委員会において2年にわたり調査研究を行う政策課題は「滞在型観光について」と決定いたしました。

今回の決定にあたり各委員から意見を聴取し検討を行いました。当委員会が所管する政策の分野としては商工業・農林水産業・都市整備等であります。範囲が広く課題も多いため聴取した意見も多岐にわたり、改めて当委員会の使命というものを痛感しました。その中でこれからの富士宮市を考えた時、今このタイミングで検討しておくべきこととして、「滞在型観光」を題材とすることで全委員の合意のもと決定しました。

現在当市の観光の形態は多くの資源を持ちながらも通過型であり、これからインバウンドの増加などが期待される中、観光を一つの産業として発展させていくためには滞在型にしていく必要性を強く感じるところであります。それについては以前より観光業界も市民も共感しているところだと思いますが、なかなかその方向へ進んでいない現実があります。その現実をしっかりと捉え、なぜ進まないのか、進めるには何が必要なのかということを確認し、将来に向かっての滞在型観光について提言することが出来ればと考えております。また、「滞在型観光」以外の課題についても所管事務調査を通して研究していきます。



一般質問



うえまつ けんいち  
**植松 健一** 議員  
(芙蓉)

プラスチックごみ問題について

**問** プラスチックごみの処理の現状と今後の展開について伺う。

**部長** ペットボトル、トレーは分別収集し民間事業者でリサイクル処理され、それ以外のプラスチック製品は清掃センターで可燃ごみとして焼却処理している。

**問** 代替素材やバイオプラスチックの普及を推進してはどうか。

**部長** プラスチックごみ問題は世界的な対応が必要な喫緊の課題である。代替素材の普及推進等について国や県等と連携を図りながら取り組んでいきたいと考えている。

**市長** プラスチックごみの問題は重大な課題であり、市としても真剣に取り組んで行かなければならない。しっかり情報発信していきたい。

楽しく通える学校の実現について

**問** 不登校児童生徒への対応について伺う。

**教育長** 小・中学校での取り組みとして「リストアップシート」や「小中連携不登校対応個票」を活用して実態把握をしている。各学校での不登校生徒への訪問や電話連絡をし、教育委員会と各学校で情報共有が出来ている。

**問** SNSが与える影響について対策を考えてはどうか。

**教育長** 背景にはスマートフォン等の所持率の上昇や所持の低年齢化がある。富士山まちづくり出前講座を利用し、市民に児童生徒の現状やその対策について考えてもらっている。全ての中学校でSNSに関する講座を予定している。

**問** スクールソーシャルワーカー等の学校への専任配置が必要と考えるがいかがか。

**教育長** 予算面だけでなく人材面においても各学校への配置は難しい状況である。人材確保のための育成が急務であり、県教育委員会へ強く要望していく。